Ⅲ

学部・研究科等による取組み

Ⅲ－２　千葉第二キャンパス

千葉第二キャンパス学年暦 …… 151

看護栄養学部 …… 155

学部レビュー

１　学生の受け入れ

２　教育課程

３　学生支援

４　進路支援

５　研究活動

６　社会貢献

７　図書室〔千葉第二〕

８　自己点検・評価

９　その他

看護学研究科 …… 181

研究科レビュー

１　学生の受け入れ

２　教育課程

３　研究活動

４　その他

2017（平成29）年度　千葉第二キャンパス〔看護栄養学部〕　学年暦

4　月

1	土		新年度オリエンテーション（1年次）　健康診断【午前】（3年次・大学院）【午後】（4年次）
2	日		
3	月		新年度オリエンテーション（1・2年次）
4	火		第53回入学式〈学部・大学院〉
5	水		新年度オリエンテーション（1・3年次）
6	木		新年度オリエンテーション（1・4年次）
7	金	1	前学期授業開始
8	土		健康診断【午前】（1年次）・【午後】（2年次）
9	日		
10	月	1	
11	火	1	
12	水	1	
13	木	1	
14	金	2	
15	土		
16	日		
17	月	2	前学期履修登録開始【4/17　9：00～4/19　13：00】
18	火	2	
19	水	2	前学期履修登録終了【4/17　9：00～4/19　13：00】
20	木	2	前学期履修取消期間開始【4/20　8：50～4/21　13：00】　教授会
21	金		前学期履修取消期間終了【4/20　8：50～4/21　13：00】 降誕会【午前】、新入生セミナー【午後】
22	土		
23	日		創立記念日
24	月	3	平成29年度保健所実務研修合同講義（看護学科3年次保健師課程）
25	火	3	前学期学費納入期限〈学部・大学院〉
26	水	3	履修登録確認期間【4/26　8：50～4/27　13：00】
27	木	3	履修登録確認期間【4/26　8：50～4/27　13：00】
28	金	3	
29	土		昭和の日　事務部窓口閉鎖
30	日		

5　月

1	月		海の日の振替休日　事務部窓口閉鎖
2	火		敬老の日の振替休日　事務部窓口閉鎖
3	水		憲法記念日　事務部窓口閉鎖
4	木		みどりの日　事務部窓口閉鎖
5	金		こどもの日　事務部窓口閉鎖
6	土		
7	日		
8	月	4	
9	火	4	
10	水	4	
11	木	4	
12	金	4	
13	土		
14	日		
15	月	5	看護学科総合実習（看護学科4年次）【5/15～5/26】
16	火	5	
17	水	5	
18	木	5	教授会
19	金	5	
20	土		
21	日		
22	月	6	
23	火	6	
24	水	6	
25	木	6	
26	金	6	
27	土		スポーツレクリエーション祭〈千葉C〉
28	日		
29	月	7	
30	火	7	
31	水	7	

6　月

1	木	7	
2	金	7	看護学科総合実習全体発表会（看護学科4年次）
3	土		
4	日		
5	月	8	
6	火	8	
7	水	8	
8	木	8	
9	金	8	
10	土		
11	日		
12	月	9	
13	火	9	
14	水	9	
15	木	9	教授会
16	金	9	前学期定期試験日程発表〈千葉第二C科目〉
17	土		学園建学式・教職員特別研修会
18	日		
19	月	10	基礎看護学実習Ⅰ（看護学科1年次）【6/19～6/23】
20	火	10	
21	水	10	
22	木	10	就活講座（栄養学科3年次）
23	金	10	基礎看護学実習Ⅰ学習成果発表会（看護学科1年次）
24	土		
25	日		オープンキャンパス〈千葉第二C〉
26	月	11	
27	火	11	
28	水	11	
29	木	11	就活講座（栄養学科3年次）　教職員健康診断
30	金	11	

7　月

1	土		
2	日		
3	月	12	
4	火	12	
5	水	12	
6	木	12	盂蘭盆会【午後】
7	金	12	
8	土		
9	日		
10	月	13	
11	火	13	
12	水	13	
13	木	13	就活講座（栄養学科3年次）
14	金	13	
15	土		
16	日		
17	月	14	通常授業（海の日）
18	火	14	
19	水	14	
20	木	14	就活講座（栄養学科3年次）　教授会
21	金	14	
22	土		卒業生の集い
23	日		オープンキャンパス〈千葉第二C〉
24	月	15	
25	火	15	
26	水	15	
27	木	15	
28	金	15	前学期学授業終了〈千葉第二C〉
29	土		
30	日		
31	月		前学期定期試験期間【7/31～8/4】〈千葉第二C科目〉

8　月

1	火		前学期定期試験期間【7/31～8/4】〈千葉第二C科目〉
2	水		前学期定期試験期間【7/31～8/4】〈千葉第二C科目〉
3	木		前学期定期試験期間【7/31～8/4】〈千葉第二C科目〉
4	金		前学期定期試験期間【7/31～8/4】〈千葉第二C科目〉
5	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
6	日		オープンキャンパス〈千葉第二C〉
7	月		成人看護学実習Ⅰオリエンテーション　授業予備期間【8/7～8/8】〈千葉C科目〉
8	火		領域実習オリエンテーション　授業予備期間【8/7～8/8】〈千葉C科目〉
9	水		
10	木		
11	金		山の日　事務部窓口閉鎖
12	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
13	日		
14	月		
15	火		再試験対象者発表〈千葉C科目・千葉第二C科目〉　再試験日程発表〈千葉第二C科目〉 再試験申し込み期間【8/15～8/17】〈千葉C科目・千葉第二C科目〉
16	水		再試験申し込み期間【8/15～8/17】〈千葉C科目・千葉第二C科目〉
17	木		再試験申し込み期間【8/15～8/17】〈千葉C科目・千葉第二C科目〉
18	金		
19	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
20	日		オープンキャンパス〈千葉第二C〉
21	月		
22	火		再試験期間【8/22～8/24】〈千葉第二C科目〉
23	水		再試験期間【8/22～8/24】〈千葉第二C科目〉
24	木		再試験期間【8/22～8/24】〈千葉第二C科目〉　保健師課程選抜試験（看護学科2年次）
25	金		
26	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
27	日		
28	月		老年看護学実習Ⅰ（看護学科2年次）【8/28～9/8】
29	火		
30	水		
31	木		前学期成績発表

9　月

1	金		再試験日程発表〈千葉C科目〉　臨地実習（栄養学科3年次）
2	土		
3	日		オープンキャンパス〈千葉C〉
4	月		再試験期間【9/4～9/7】〈千葉C科目〉　成人看護学実習Ⅰ（看護学科3年次）【9/4～9/15】 公衆衛生看護展開実習　市町村（看護学科4年次保健師課程）【9/4
5	火		再試験期間【9/4～9/7】〈千葉C科目〉
6	水		再試験期間【9/4～9/7】〈千葉C科目〉
7	木		再試験期間【9/4～9/7】〈千葉C科目〉
8	金		前学期成績発表（看護学科2年次）
9	土		
10	日		
11	月		
12	火	1	後学期授業開始
13	水	1	後学期履修登録開始【9/13　9：00～9/15　13：00】
14	木	1	
15	金	1	後学期履修登録終了【9/13　9：00～9/15　13：00】
16	土		9月AO入試
17	日		
18	月	1	通常授業（敬老の日）　後学期履修取消期間開始【9/18　8：50～9/20　13：00】
19	火	2	
20	水	2	後学期履修取消期間終了【9/18　8：50～9/20　13：00】
21	木	2	教授会
22	金	2	
23	土		秋分の日　事務部窓口閉鎖
24	日		
25	月	2	後学期学費納入期限〈大学院〉　看護学科領域実習（看護学科3年次）【9/25～3/9】 履修登録確認期間【9/25　8：50～9/26　13：00】
26	火	3	履修登録確認期間【9/25　8：50～9/26　13：00】
27	水	3	
28	木	3	
29	金	3	
30	土		

10月			
1	日		
2	月	3	
3	火	4	
4	水	4	
5	木	4	
6	金	4	
7	土		
8	日		
9	月	4	通常授業（体育の日）
10	火	5	
11	水	5	
12	木	5	
13	金	5	
14	土		10月AO入試
15	日		
16	月	5	公衆衛生看護展開実習　産業学校（看護学科４年次保健師課程）【10/16 ～ 10/20】
17	火	6	
18	水	6	
19	木	6	教授会
20	金	6	
21	土		保護者懇談会
22	日		
23	月	6	
24	火	7	
25	水	7	後学期学費納入期限〈学部〉
26	木	7	
27	金		龍澤祭準備のため終日休講
28	土		龍澤祭〈千葉C〉　　オープンキャンパス〈千葉C〉
29	日		龍澤祭〈千葉C〉　　ミニオープンキャンパス〈千葉第二C〉
30	月		龍澤祭後片付けのため終日休講
31	火		振替休日（体育の日）　事務部窓口閉鎖

11月			
1	水	8	
2	木	8	
3	金	7	通常授業（文化の日）
4	土		
5	日		
6	月	7	
7	火	8	
8	水	9	
9	木	9	
10	金	8	
11	土		指定校・公募推薦、学園傘下高校特別選抜入学試験
12	日		
13	月	8	
14	火	9	
15	水	10	
16	木	10	教授会
17	金	9	
18	土		
19	日		
20	月	9	
21	火	10	
22	水		振替休日（文化の日）　事務部窓口閉鎖
23	木		勤労感謝の日　事務部窓口閉鎖
24	金	10	
25	土		
26	日		
27	月	10	
28	火	11	
29	水	11	
30	木	11	

12月			
1	金	11	
2	土		
3	日		
4	月	11	
5	火	12	
6	水	12	
7	木	12	成道会（午後）
8	金	12	B型肝炎予防接種1回目（看護学科1年次）
9	土		12月ＡＯ入試、社会人・帰国生徒・外国人留学生入学試験
10	日		
11	月	12	
12	火	13	
13	水	13	
14	木	13	
15	金	13	
16	土		入学前セミナー
17	日		
18	月	13	
19	火	14	
20	水	14	
21	木	14	教授会
22	金	14	後学期定期試験日程発表〈千葉第二C科目〉
23	土		天皇誕生日　事務部窓口閉鎖
24	日		
25	月	14	
26	火		事務局窓口閉鎖期間（H 29.12.26 ～ H30.1.5）
27	水		
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		

1月			
1	月		元日
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土		
7	日		
8	月		成人の日　事務部窓口閉鎖 公衆衛生看護基礎実習（看護学科３年次保健師課程）【1/8 ～2/16】
9	火	15	
10	水	15	
11	木	15	
12	金	15	大学入試センター試験準備　　B型肝炎予防接種２回目（看護学科1年次）
13	土		大学入試センター試験【1/13 ～ 1/14】
14	日		大学入試センター試験【1/13 ～ 1/14】
15	月	15	後学期授業終了
16	火		後学期定期試験期間【1/16 ～1/22まで】〈千葉第二C科目〉
17	水		後学期定期試験期間【1/16 ～1/22まで】〈千葉第二C科目〉
18	木		後学期定期試験期間【1/16 ～1/22まで】〈千葉第二C科目〉　　教授会
19	金		後学期定期試験期間【1/16 ～1/22まで】〈千葉第二C科目〉
20	土		後学期定期試験期間【1/16 ～1/22まで】〈千葉第二C科目〉
21	日		
22	月		後学期定期試験期間【1/16 ～1/22まで】〈千葉第二C科目〉
23	火		授業予備期間【1/23 ～ 1/24】〈千葉C科目〉
24	水		授業予備期間【1/23 ～ 1/24】〈千葉C科目〉
25	木		
26	金		
27	土		
28	日		
29	月		
30	火		
31	水		

2月			
1	木		一般入試Ａ
2	金		一般入試Ａ　　再試験対象者発表〈千葉C科目・千葉第二C科目〉 再試験日程発表〈千葉第二C科目〉 再試験申し込み期間【2/2 ～2/5】〈千葉C科目・千葉第二C科目〉
3	土		再試験申し込み期間【2/2 ～2/5】〈千葉C科目・千葉第二C科目〉
4	日		
5	月		再試験申し込み期間【2/2 ～2/5】〈千葉C科目・千葉第二C科目〉
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		再試験期間【2/8 ～2/10】〈千葉二C科目〉
11	日		再試験期間【2/8 ～2/10】〈千葉二C科目〉
12	月		再試験期間【2/8 ～2/10】〈千葉二C科目〉
13	火		一般入試２次試験、祝日(建国記念の日)
14	水		振替休日（建国記念日）　事務部窓口閉鎖 基礎看護学実習Ⅱ（看護学科２年次生）【2/12 ～ 3/9】
15	木		卒業式（学部）　　卒業記念パーティー（学部）
16	金		教授会
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		春分の日　事務部窓口閉鎖
22	木		
23	金		後学期成績発表（１・２・３年次）　　進級発表（看護学科１・２・３年次）
24	土		
25	日		オープンキャンパス〈千葉C〉
26	月		
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		

3月			
1	木		卒業者発表（４年次）
2	金		転学部・転学科・転コース試験〈千葉C〉
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		
11	日		
12	月		選択型入試
13	火		
14	水		
15	木		
16	金		教授会
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		

※「回」に数字が記載されていない日は、通常授業はありません（実習は除く）。ただし、補講等が実施される場合がありますのでご注意ください。

2017（平成29）年度　千葉第二キャンパス〔看護学研究科〕　学年暦

4月			
1	土		【午前】健康診断（大学院）　【午後】オリエンテーション　新入生　13：00～　大学院院生研究室 2年生　14：00～　1-306セミナー室
2	日		
3	月		
4	火		第2回大学院看護学研究科入学式（学部は第53回入学式）
5	水		
6	木		
7	金	1	前学期授業開始
8	土	1	
9	日		
10	月	1	前学期履修登録開始
11	火	1	
12	水	1	
13	木	1	
14	金	2	
15	土	2	
16	日		
17	月	2	
18	火	2	開講科目決定
19	水	2	
20	木	2	
21	金		宗教行事 降誕会【午後】
22	土	3	
23	日		創立記念日
24	月	3	指導教員希望届提出締切　　前学期履修登録締切
25	火	3	前学期学費納入期限〈学部・大学院〉
26	水	3	
27	木	3	研究科委員会
28	金	3	指導教員の発表
29	土		昭和の日
30	日		

5月			
1	月		海の日の振替休日　事務部窓口閉鎖
2	火		敬老の日の振替休日　事務部窓口閉鎖
3	水		憲法記念日　事務部窓口閉鎖
4	木		みどりの日　事務部窓口閉鎖
5	金		こどもの日　事務部窓口閉鎖
6	土	4	
7	日		
8	月	4	
9	火	4	
10	水	4	
11	木	4	
12	金	4	
13	土	5	
14	日		
15	月	5	
16	火	5	
17	水	5	
18	木	5	
19	金	5	
20	土	6	
21	日		
22	月	6	
23	火	6	
24	水	6	
25	木	6	研究科委員会
26	金	6	
27	土	7	
28	日		
29	月	7	
30	火	7	
31	水	7	

6月			
1	木	7	
2	金	7	
3	土	8	
4	日		
5	月	8	
6	火	8	
7	水	8	
8	木	8	
9	金	8	
10	土	9	
11	日		
12	月	9	
13	火	9	
14	水	9	
15	木	9	
16	金	9	
17	土		学園建学式・教職員特別研修会
18	日		
19	月	10	
20	火	10	
21	水	10	
22	木	10	研究科委員会
23	金	10	
24	土	10	
25	日		オープンキャンパス（千葉第二）・大学院入試説明会
26	月	11	
27	火	11	
28	水	11	
29	木	11	
30	金	11	

7月			
1	土	11	
2	日		
3	月	12	
4	火	12	
5	水	12	
6	木	12	宗教行事 盂蘭盆会【午後】
7	金	12	
8	土	12	
9	日		
10	月	13	
11	火	13	
12	水	13	
13	木	13	
14	金	13	
15	土	13	
16	日		
17	月	14	通常授業（海の日）
18	火	14	
19	水	14	
20	木	14	
21	金	14	
22	土	14	
23	日		オープンキャンパス（千葉第二）・大学院入試説明会
24	月	15	
25	火	15	
26	水	15	
27	木	15	研究科委員会
28	金	15	
29	土	15	前学期授業終了
30	日		
31	月		

8月			
1	火		
2	水		
3	木		
4	金		
5	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
6	日		オープンキャンパス（千葉第二）・大学院入試説明会
7	月		
8	火		
9	水		
10	木		
11	金		山の日　事務部窓口閉鎖
12	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木		
18	金		
19	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
20	日		オープンキャンパス（千葉第二）・大学院入試説明会
21	月		
22	火		
23	水		
24	木		
25	金		
26	土		夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖
27	日		
28	月		
29	火		
30	水		
31	木		修士論文仮テーマ提出（3年制コース）

9月			
1	金		
2	土		
3	日		オープンキャンパス（千葉キャンパス）・大学院入試説明会
4	月		
5	火		
6	水		
7	木		
8	金		
9	土		
10	日		
11	月		
12	火	1	後学期授業開始　　前学期成績発表　　後学期履修登録開始
13	水	1	
14	木	1	
15	金	1	研究計画書提出（3年制コース）
16	土	1	学部　9月AO入学試験
17	日		
18	月	1	通常授業（敬老の日）
19	火	2	
20	水	2	
21	木	2	
22	金	2	
23	土		秋分の日　事務部窓口閉鎖
24	日		
25	月	2	後学期学費納入期限〈大学院〉
26	火	3	
27	水	3	
28	木	3	研究科委員会　　主査・副査決定（3年制コース）
29	金	3	後学期履修登録締切
30	土		第1回大学院入学試験　　中間発表会・研究計画発表会

10月			
1	日		
2	月	3	
3	火	4	
4	水	4	
5	木	4	
6	金	4	
7	土	2	
8	日		
9	月	4	通常授業（体育の日）　最終研究計画書提出（3年制コース）
10	火	5	
11	水	5	
12	木	5	
13	金	5	
14	土	3	学部 10月AO入学試験
15	日		
16	月	5	
17	火	6	
18	水	6	
19	木	6	
20	金	6	
21	土	4	
22	日		
23	月	6	
24	火	7	
25	水	7	
26	木	7	研究科委員会
27	金		龍澤祭準備のため終日休講
28	土	5	龍澤祭　オープンキャンパス（千葉キャンパス）
29	日		龍澤祭　ミニオープンキャンパス（千葉第二）・大学院入試説明会
30	月		龍澤祭後片付けのため終日休講
31	火		振替休日（体育の日）　事務部窓口閉鎖

11月			
1	水	8	
2	木	8	
3	金	7	通常授業（文化の日）
4	土	6	
5	日		
6	月	7	
7	火	8	
8	水	9	
9	木	9	
10	金	8	
11	土	7	学部 推薦入学試験
12	日		
13	月	8	
14	火	9	
15	水	10	
16	木	10	
17	金	9	
18	土	8	
19	日		
20	月	9	
21	火	10	
22	水		振替休日（文化の日）　事務部窓口閉鎖
23	木		勤労感謝の日　事務部窓口閉鎖
24	金	10	
25	土	9	
26	日		
27	月	10	
28	火	11	
29	水	11	
30	木	11	研究科委員会

12月			
1	金	11	
2	土	10	
3	日		
4	月	11	
5	火	12	
6	水	12	
7	木	12	宗教行事 成道会【午後】
8	金	12	
9	土	11	
10	日		学部 12月AO入学試験　社会人・帰国生徒・外国人留学生 入学試験
11	月	12	
12	火	13	
13	水	13	
14	木	13	
15	金	13	
16	土	12	
17	日		
18	月	13	
19	火	14	
20	水	14	修士論文提出締切日
21	木	14	研究科委員会
22	金	14	
23	土		天皇誕生日　事務部窓口閉鎖
24	日		
25	月	14	
26	火		事務部窓口閉鎖期間（H29.12.26 ～ H30.1.5）
27	水		
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		

1月			
1	月		元日
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土	13	
7	日		
8	月		成人の日　事務部窓口閉鎖
9	火	15	
10	水	15	
11	木	15	
12	金	15	大学入試センター試験準備
13	土	14	大学入試センター試験【1/13 ～ 1/14】（千葉キャンパスにて実施）
14	日		大学入試センター試験【1/13 ～ 1/14】（千葉キャンパスにて実施）
15	月	15	
16	火		
17	水		
18	木		
19	金		
20	土	15	後学期授業終了
21	日		
22	月		
23	火		
24	水		
25	木		研究科委員会
26	金		
27	土		第2回大学院入学試験
28	日		
29	月		
30	火		
31	水		修士論文仮テーマ提出（2年制コース）

2月			
1	木		学部 一般入学試験A（千葉キャンパスにて実施）
2	金		学部 一般入学試験A（千葉キャンパスにて実施）
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		
11	日		祝日（建国記念の日）　学部 看護学科一般入学試験第二次試験
12	月		振替休日（建国記念日）
13	火		研究計画書提出（2年制コース）
14	水		
15	木		
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		
23	金		
24	土		修士論文研究計画発表会（2年制コース）　口頭試問　研究科委員会　修了判定 主査・副査決定（2年制コース）
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		

3月			
1	木		
2	金		
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		修士論文発表会
11	日		
12	月		学部 選択型入学試験
13	火		
14	水		
15	木		卒業式・修了式（学部・大学院）　卒業記念パーティー（学部・大学院）
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		春分の日　事務部窓口閉鎖
22	木		研究科委員会
23	金		
24	土		
25	日		オープンキャンパス（千葉キャンパス）
26	月		
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		最終研究計画書提出（2年制コース）

※「回」に数字が記載されていない日は、通常授業はありません。

平成29年度　千葉第二キャンパス（看護栄養学部）レビュー

1．平成29年度振り返り

【学部】

●学生募集（取組み、成果）

オープンキャンパスでは入学希望者への動機づけのために、30分間の学部説明時に、私立大学ならではの「建学の精神」やアドミッションポリシーの周知を図った。また興味関心を持ってもらうために、すべての回で模擬授業や体験授業を実施した。H29年度入学生は看護学科107名、栄養学科84名で入学定員は充足できた。

●キャリア支援（取組み、成果）

看護学科の就職はキャリア支援員会を中心にアドバイザー教員、キャリアカウンセラーなどと協力し、就職合同説明会や個別相談会（多くの施設で就職試験が早まっている傾向があり今年度は２月に開催した）を実施した。病院奨学金相談などの個別相談を実施。栄養学科はキャリア支援室、キャリア支援委員会、アドバイザー教員を中心に継続指導をおこなった。看護学科、栄養学科共に就職率100％を達成した。

●正課活動（取組み、成果）

コモンルーブリックは希望科目の責任者が採用している。臨地実習に関するルーブリックの実施率は看護学科（90％）、栄養学科（50％）であった。両学科とも臨地実習の成果評価として継続使用を行っている。

●正課外活動（取組み、成果）

（１）学修支援では入学時の基礎学力確認テストの成績不良者（35名）の補習講座を実施し、欠席者には寺子屋にて補習を行った。栄養学科では全員の学生がe-ラーニングの登録を行って、自己学習の機会を増やした。GPA低迷者には親子面談会を実施し、学生には個別の学習支援を行った。

（２）国家試験対策はキャリア支援委員会、学科教員、アドバイザーが連携し、試験対策を行った。国家試験合格率は看護師99.1％（新卒全国平均96.3％）、保健師96.6％（新卒全国平均85.6％）、管理栄養士82.5％（新卒全国平均95.8％）であった。

（３）ボランティア講座参加者数は65名で修了者は32名であった。活動実態は延べ41の活動に151人が参加した。

●その他

看護学科、栄養学科共にカリキュラムに関するアンケートを卒業生も含めて行っている。年度末に結果を報告し、委員会にてアンケートの見直しを行っている。

2．次年度への課題、方策

（１）看護師・保健師国家試験合格率100％、管理栄養士国家試験合格率90％（全国平均を上回る）、国家試験対策講座への出席率100％を目指す。３年次より国家試験対策をスタートさせた結果の検証を行う。

（２）就職希望者の就職内定率100％を継続する。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

1　学生の受け入れ

関連委員会	入試・広報委員会、学生厚生委員会
関 連 部 署	千葉アドミッションセンター（アドミッションオフィス、入試課）、事務部
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

- 次年度からAO入試、推薦入試受験者は、オープンキャンパスの参加が必要となるため、オープンキャンパスの内容を再検討する。また、AO入試の配点が変更となり、面接点が高く設定されるため、面接内容、評価方法について検討する。
- 次年度から３月に選択型入試を導入するにあたり、試験区分別の合格者数の決定にあたっては過去データを見ながら決める
- 18歳人口の減少に加え、大学の増加が見込まれているため、受験者の確保、入学定員の確保ができるよう、その対応を計画する。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）成果指標　両学科の受験者を増やし、入学定員100～109％確保する。
（2）各学科で得られる資格（専門職）に関して十分な理解と明確な動機をもつ者の入学を促進する。また、本学の建学の精神および各学科のアドミッションポリシーの理解を図る。
（3）入試区分ごとの適切な合格者数を検討する。
（4）配点が変更されるAO入試、新しく導入される選択型入試が円滑に実施されるよう計画および試験内容を検討する。
（5）成果指標　収容定員100～109％を確保する。

2　具体的計画　PLAN

（1）入試・広報委員会との連携を強化し、オープンキャンパスをより充実させるため、アンケート等の結果を参考にしながら体験的内容を継続し、各学科への関心を高める。出前授業等、高校訪問を行う。新設大学等の情報を早めにキャッチし、対策を立てる。
（2）29年度からAO入試受験にはオープンキャンパスの参加が必須となるため、得られる資格について十分な理解ができるよう学科説明の内容や説明方法を検討し実施する。学科説明には、学習内容、資格、建学の精神、アドミッションポリシー等について理解を深めるようにする。また、入試の際、志望理由書や面接によって、資格（専門職）についての予備知識の有無を確認する。
（3）新たに選択型入試が加わり、AO Ⅳ入試を廃止することに伴う合格者数の検討を行う。検討にあたっては過去の入試データ、入試区分別に入学後のGPAの分析をIR推進室や学内の関係部署と連携しながら行い、合格者数の配分を考える際の参考とする。
（4）面接の配点が多くなることから、面接の方法や内容について現行の内容で良いかの判断を含めて検討をする。
（5）学科、各アドバイザー、学生との連絡を密にし、学生の修学意欲を高める。

3　取組状況　DO

（1）12月末までのAO入試、推薦入試において、入学定員に対し看護学科54％、栄養学科65％を確保し、入学定員を充足できるように努めている。
（2）AO入試、推薦入試の受験者について、オープンキャンパスの学科別オリエンテーションを受けることを出願条件とし、看護師、管理栄養士に関する十分な理解と動機をもつ入学者を確保するように努めた。

（3）合格者数の決定にあたり、入試区分ごとの出願者数および在校生の入試区分別GPAを参考にして検討した
（4）2018年入試から大学入試委員会の決定によりAO、推薦入試の個人面接点を高く配点することが決定され、採点基準を見直して実施した。
（5）学科、アドバイザーおよび学生支援・相談担当者会との連携を図り、学生の状況を把握しながら修学支援に努めた。

4 点検・評価 CHECK

（1）看護学科、栄養学科ともに入学者は入学定員100～109％となった。
（2）オープンキャンパス時に学科別オリエンテーションを実施し、資格等への理解を深めた入学生を確保することにつなげた。
（3）入試区分ごとに適切な合格者数を確保することに努めた。
（4）配点の変更をしたAO入試、推薦入試について円滑に実施することができた。
（5）在籍者数は看護学科424名、栄養学科328名、合計752名で収容定員の104％である。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）受験者数を増やすための広報活動を積極的に行う。
（2）適性を評価できるようなAO、推薦、一般の面接方法を検討するため、2017年から実施した2分間スピーチの導入効果の検証も行い、次年度の参考とする。
（3）2021年から実施される大学入試共通テストについて、全学プロジェクトの決定事項等をみながら検討を開始する。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

2　教育課程①〔看護学科〕

関連委員会	看護学科、教務委員会、学生厚生委員会、キャリア支援委員会、学習支援委員会、カリキュラム検討委員会、看護学科実習委員会
関 連 部 署	事務部（教務、キャリア支援室、学習支援室）
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

- 国家試験対策など、キャリア委員会とアドバイザーとが連携し、個別指導における役割を明確するとともに、密接に情報交換を行い、特に指導が必要な学生に対し、指導を徹底する
- アドバイザー制度を検討し、看護学科に適したアドバイザー制度を検討する

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）成果指標　国家試験合格100％
（2）成果指標　授業外学習時間の増加
（3）大学間連携事業の推進
　成果指標　・ルーブリックの継続的活用による学生の自己評価力の向上（全教員が関わる）
　　・効果的なアクティブラーニングの実践
（4）成果指標　臨地実習における看護技術習得
（5）実習指導上配慮が必要な学生に対する一貫した指導の徹底
（6）教育課程（カリキュラム）改定を視座に置いた情報収集

2　具体的計画　*PLAN*

（1）キャリア支援委員会を中心に国家試験対策計画を立案・実施し、教育アドバイザーと連携して個々の学生に指導を徹底する。各看護学領域で対策講座を実施する。
（2）各教科目において、事前・事後課題を確実に設定する。
（3）①　2種類の実習ルーブリック〈倫理的側面〉〈看護過程〉を継続的に用い、学生自身の自己評価（目標達成度）の確認を共に行う。
　②　コモンルーブリックについては、1－4年の各時期に重複しないよう調整して実施する。
　③　3年前期科目でグルーピング・実施時期の調整をした上でアクティブラーニングを実施する。
（4）臨地実習前の基本看護技術修得状況の確認及び臨地におけるの看護技術実施状況を把握する。
（5）臨地実習指導上配慮が必要な学生の情報共有を行い、一貫した指導を行う。
　・領域実習（3年生）における実習状況について学科会議にて情報共有を行う（継続）。
　・2年生（基礎看護学実習Ⅱ）、3年生（成人後学実習Ⅰおよび領域実習）のグルーピングの際に配慮する。
（6）看護師学校養成所規則の改定、看護系大学コアカリキュラム策定に関する情報を収集し、社会の要請に即した人材育成ができるよう教育課程について検討する。

3　取組状況　*DO*

（1）キャリア支援委員会が中心となり、国家試験対策講座を運営した。各看護学領域の教員の補習授業の実施、アドバイザー教員と共同した個別指導など全力を注いだが、国家試験合格率（看護師99.1％、保健師96.6％）いずれも1名ずつ不合格の結果だった。
（2）H29年度シラバス作成時に毎回の授業に事前学習・事後学習を具体的に示すようにマニュアル化し、第三者チェックにより確実に記載していることを確認した。
　・成績低迷者（1、2、3年生はGPA2.0未満、4年生は国家試験模擬試験成績不振者）の学生

を対象に、保護者懇談会（10月21日）の機会を利用してアドバイザー・保護者・本人の３者面談を行い、家庭における学修時間の確保について要請した。

（３）臨地実習ルーブリック２種、学士力ルーブリック、コモンルーブリック４種を用いて、各学年の適切な時期に学生自身の到達度を確認した。特に３年次後期には、臨地実習ルーブリック（２種）を用い、担当教員と一緒に確認する作業を複数回行った。全教員が臨地実習を担当しているため、全教員がルーブリック活用に関わった。

・アクティブラーニングについては、他の科目の課題を考慮して計画的な課題提示をした。

（４）各実習科目において臨地実習前に学内技術演習を行い各科目に必要な看護技術の修得状況を確認した。しかし、臨地における実践状況の把握まで至らなかった。

（５）実習指導上配慮が必要な学生情報は学科会議の際に共有し、指導方針を確認した。学習意欲低下や心身の不調により実習継続が不可能となった多数のケースではアドバイザーと学科長・学部長が保護者面談を行うなどして対応した。

（６）「看護学科カリキュラム改定検討会」を発足させ、「看護師看護学教育モデル・コア・カリキュラム（文部科学省、2017年10月）」を参考に、現行の教育内容を点検した。

4 点検・評価 CHECK

（１）留年経験のある学生の学修支援の方法について検討していく必要がある。

（２）５時間以上／週の授業準備をする者の割合は30.1％（2016年）→40.1％と増加しているが、全くない者が０％（2016年）→４％（2017年）出現している。学修行動が定着しているとは言い切れず、学修習慣がない学生への指導が課題である。

（３）開発した実習ルーブリックを用いた学生の自己評価全教員が関わり、運用はうまくいっているが、今後は、組織的にそれを評価するための体制を整える必要がある。

（４）臨地実習における技術実践状況調査について検討する。

（５）実習指導上配慮が必要な学生に対し、個別性を尊重した上で、保護者・本人・教員が共に考え、本人の納得いく対応（進路変更含む）を提案できた。学生の特性が益々多様化していくことが予測されることから、教員のスキル向上が必要となる。

（６）現行教育課程の各科目において、「看護師看護学教育モデル・コア・カリキュラム（文部科学省）」に示された各学修目標に向けた教育内容が網羅されていることを確認した。早急な改定の必要性はないが保健師課程の適正履修を検討していく。

5 次年度に向けた課題 ACTION

・国家試験合格率100％を目指した戦略を構築する。

・開発した実習ルーブリックの内容・運用方法について評価する。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

2　教育課程②〔栄養学科〕

関連委員会	栄養学科、教務委員会、学生厚生委員会、学習支援委員会、キャリア支援委員会、カリキュラム検討委員会、栄養学科実習委員会
関 連 部 署	事務部（教務、キャリア支援室、学習支援室）
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

- 管理栄養士国家試験合格については引き続き、低学年からの学習とあわせ、学習支援委員会、キャリア支援委員会、アドバイザーと連携して学生支援を行う。
- 学生生活や学習上での注意しなければならない学生については、アドバイザーからの指導に加え、学科内での情報共有に努める。
- 次年度からの進級要件について、新入生への周知を徹底するとともに、日頃からの学習習慣の重要性を学生に伝えていく。

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）成果指標　国家試験合格率を全国平均以上、就職率を100％とする。
（2）学生生活、学習上で注意が必要な学生への指導を適切に行い退学や休学者を減らす。
（3）現２年生以下の新カリキュラムが問題なく実施できるように授業を計画する。
（4）ディプロマポリシーとの整合性を図りながら社会で必要される管理栄養士養成を目指すため、授業内容の確認を行う。
（5）成果指標　授業外学習時間の１日平均1.5時間以上７％増加。
（6）成果指標　卒業研究履修者を増やす。
（7）成果指標　臨地実習ルーブリックを実施する。

2　具体的計画　*PLAN*

（1）キャリア支援委員会、学習支援委員会とアドバイザーとが連携し、学生を支援する。また、１年次から１年次から授業態度、欠席、提出物についての管理を徹底する。
（2）欠席が多い学生、授業態度に問題のある学生、コミュニケーションが苦手な学生などは、学科内で情報を共有し、授業など様々な場面での配慮と支援を行い、休学や退学者の減少と国試合格率、就職率の向上につなげる。
（3）次年度は新カリキュラムによる臨地実習が始まるため、履修方法等の計画を実習委員会、教務委員会と連携しながら決定する。
（4）管理栄養士養成について提案されているモデルコアカリキュラムを基に、本学のディプロマポリシーとの整合性を図りながら社会で必要とされている管理栄養士のあり方を検討するとともに、管理栄養士養成に必要な本学の授業内容の確認を行う。
（5）事前事後学習時間が担保できるような具体的課題の設定を教員に呼びかける。シラバスチェック時に事前事後学習の時間的妥当性を確認する。
（6）学生が希望する卒業研究ができるよう、各教員が200字程度の内容紹介を作成し、履修希望学生を募る。
（7）臨地実習ルーブリックを精錬する

3 取組状況 DO

（1）4年生の国家試験対策は、キャリア支援委員会が中心となり進め、助教以上の学科教員による対策講座は前後期あわせて190コマ実施した。

1年次からの望ましい学習態度をつくるため、授業の受講に関するルールを共有し、授業態度、欠席、提出物の管理を厳しく行った。学習支援委員会では、低学年からの学習習慣を確立するために、e-ラーニングを用いて課題提出を求めるなどの学習支援を行った。就職支援はキャリア支援委員会、キャリア支援室、アドバイザーが就職希望者への支援を行った。

（2）学科内での学生情報を共有し、アドバイザーを中心に学生の課題解決の早期支援に努めた。

（3）新カリキュラムの実施について、次年度の臨地実習に関しては実習委員会が中心となって提案し学科で検討した上で計画した。

（4）授業内容について、次年度のゲストスピーカー計画を共有し、科目の理解とつながりを確認した。

（5）シラバスの作成要領に事前事後学習時間について追記し、全教員へ周知した。またシラバスチェック項目にも事前事後学習内容と所要時間との整合性について確認する項目を設け、確認システムを整えた。

（6）卒論紹介の資料を作成し学生が希望する卒業研究ができるようにした。また、卒業研究報告審査会を実施し、他の教員からの評価を得た。

（7）臨地実習ルーブリックの検証、評価を行った。

4 点検・評価 CHECK

（1）管理栄養士国家試験合格率は82.5％であった。なお、全国平均合格率は60.8％、管理栄養士養成課程（新卒）合格率は95.8％であった。就職希望者の100％が決定している。

（2）退学者は2年生4名の合計4名であった。

（3）新カリキュラムの実施について、大きな問題は生じなかった。

（4）十分な検討には至らなかったが、できるところから授業内容について、科目間のつながりと理解を深めている。

（5）授業時間以外の学習時間は前学期授業1回平均3時間以上8.9％

（6）平成29年度の卒業研究履修者は56人（85％）であった。

（7）ルーブリックの使用により、臨地実習の目標を確認し、効果を学生、教員共に評価するためのツールとして活用した。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）管理栄養士国家試験の合格率を管理栄養士養成課程の全国平均以上にする。

（2）就職・進学の希望について、適切に支援する。就職希望者の就職率を100％とする。

（3）新カリキュラムを円滑に運営できるように計画する。

（4）次年度以降に厚労省が発表を予定しているコアカリキュラムを基にカリキュラム見直しの必要があるため、この検討を始める。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

2　教育課程③〔教育向上委員会〕

関連委員会	教育向上委員会、実習委員会、研究倫理審査委員会
関 連 部 署	事務部
関連データ	2016年度（平成28）ファカルティ・ディベロップメント成果報告書（FD活動編）

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

（1）授業アンケート
- 引き続き実施の徹底を図るため、教員・学生に対し協力要請を適宜行う
- 授業アンケートの事前配布の徹底を図る

（2）教員研修
- ルーブリック以外の教員研修会として、適切なテーマについて検討する
- 教育向上委員の能力開発のための研修参加については、早期から外部における研修会の開催についてキャッチして、参加に向けて日程調整を図る

（3）授業公開
授業者、参観者両者の全員参加の徹底を図る

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）成果指標 授業アンケートを適正かつ確実に実施し、実施率100％を達成する。
（2）大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」（平成28年度で終了）実現に向けた取り組み内容の見直しを図り、継続的運営・評価を行う。
（3）成果指標 インタラクティブティーチングに関する教員研修、および教員の質向上に向けた教職員研修会を企画・実施する。
　ア　FD研修3回以上／年、SD研修3回／年以上実施
　イ　FD／SD研修参加率90％以上
（4）授業方法の工夫と改善
学生と教員の評価の異なる科目の検証を行い改善策を図る。
（5）成果指標 授業公開の参加（授業者・参観者とも）を全教員100％達成する。

2　具体的計画　PLAN

（1）授業アンケートの実施
全学統一授業アンケート用紙を用いて、全科目のアンケートを遺漏なく実施する。
（2）教職員研修の実施
　ア　教職員の質向上に向けた研修会を実施する。
　イ　学外講師による教職員研修会を実施する。
　ウ　教育向上委員の能力開発を意図した外部研修会等への参加を促す。
（3）授業公開の全教員参加
　ア　全教員が授業者・参観者としてのノルマを100％達成する。
　イ　アクティブ・ラーニング実践授業の公開促進を図る。
（4）学修成果の可視化に向けたルーブリック評価の活用促進
教務委員会およびカリキュラム委員会と連携し、ルーブリック評価を用いた学修成果の可視化と、そのデータを用いた授業改善の方向性を検討する。

3 取組状況 DO

（1）授業アンケート

全学統一授業アンケート用紙を用い、全科目の実施を目標とし、100％の達成を得た。

（2）教職員研修

ア　淑徳大学合同FD・SD研修会への参加

イ　看護栄養学部によるFD・SD研修会の実施

2017年9月「ヒトを対象とした研究における倫理的配慮」をテーマに実施した。

ウ　外部の研修会への参加

3名の教員が研修会に参加した。

（3）ルーブリックを用いた評価

①学士力ルーブリック、②臨地実習ルーブリック、③コモンルーブリック、3種類の評価を実施した。

（4）授業公開

全員参加（授業者・参観者とも）の徹底を図り全教員への働きかけを徹底した。

4 点検・評価 CHECK

（1）授業アンケート

平成29年度、活動計画案通りに実施できた。アンケート評価の低い項目を分析し、各教員の意識を高めていく必要がある。

（2）教員研修

今年度は、学部での研修会1回の開催であった。後学期は臨地実習との重なりから、効果的な研修会の取り組みが難しい。積極的に情報収集に努め時期等検討する。

（3）授業公開

全員参加（公開・参観とも100％）を達成できた。

（4）委員会活動評価としては、80点とする。

授業アンケート、授業公開・参観とも100％達成された成果は評価できる。主体的な取り組みができていない教員がいることから年度初めの説明の強化を図る。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）授業アンケートの確実な実施。

（2）教員研修における適切な時期とテーマの検討を行う。

（3）授業公開における授業者、参観者両者の全員参加の徹底を図る。

看護栄養学部　看護学研究科

3　学生支援①〔学生厚生〕

関連委員会	学生厚生委員会、学生支援・相談担当者会、入試・広報委員会、看護学科、栄養学科
関 連 部 署	事務部（学生厚生、学生相談室、保健室）
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

- 龍澤祭、スポーツリクリエーションについて、千葉第一キャンパスと連携を図り、早めに連絡をとりながら、積極的な参加を図る
- 看護栄養学部の寮生の比率が増えてきているため、学生厚生委員会の担当者を決めて支援を行う
- 本年度から新たな学食（リラカフェ）が開店したが、利用者数が少なくならないよう、持続的な存続を見据えた支援をする

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）成果指標 休学・退学願等の把握を迅速に行い、適切な対応および判定を行う。
退学・除籍率１％以下。
（2）奨学金給付及び貸与者の適正な選考を行う。
（3）学生諸団体の活動上の指導を適切に行う。
（4）龍澤祭への参加を促し、学生への支援を行う。
（5）感染症対策と予防接種の勧奨
（6）若樹寮や龍澤祭等における千葉キャンパス学生厚生委員会との連携

2　具体的計画　*PLAN*

（1）休学・退学希望者の減少を図るため、経済事情による事由には奨学金等の案内をし、事由解消に努める。休学・退学願の受付手続きをわかりやすく整え、適切な審議をする。
学生支援・相談者会との連携を図り、学生の問題にについて適切な指導を行う。
（2）各奨学金について、目的に応じた選択ができるように指導を行い、また厳正な選考に努める。
②日本学生支援機構からの奨学金貸与者に対する適格認定の「警告」に該当する者を減らすように、学科、学習支援委員会、アドバイザーと連携し、学習指導を行う。
（3）諸団体の活動を把握し、事故等が無いように適切な指導を行う。千葉東病院のクリスマスコンサート、共生苑の「ニューイヤーコンサート」を支援する。
（4）両学科より龍澤祭実行委員を選出して看護栄養学部のブースの運営を行う。また、実行委員とサークル等の龍澤祭参加団体との連絡調整を支援する
（5）「健康管理のしおり」の活用を進め、学内での感染症の対策や健康管理を行う。
（6）若樹寮の運営、龍澤祭等について、千葉キャンパス学生厚生委員会と定期的な連絡会を実施し、共通理解を深め問題発生時などに対処する。

3　取組状況　*DO*

（1）奨学金等の案内は適切に行い、経済的事由による休学、退学を減らすように努力し、その他の学生の問題について、学生支援、学生相談担当者会との情報共有を行った。
（2）奨学金給付および貸与者は厳正に選考を行うとともに面接を実施し適正な選考を行った。奨学金貸与者に対する適格認定の「警告」に該当する者について、学生厚生委員、アドバイザーとともに指導を行った。
（3）学生諸団体については年度当初に活動を把握し、適切な指導を行った。
音楽履修者の団体「淑徳ハーモニークラブ」の千葉東病院でのクリスマスコンサート、淑徳

共生苑での「ニューイヤーコンサート」を実施し、施設との調整や学生の支援を行った。
（4）両学科から龍澤祭実行委員を選出し、看護栄養学学部のブースの運営を行った。
初めての試みとして看護学科教員および学生によるコンサートをアリーナで開催した。
（5）感染症対策と予防接種の勧奨について、昨年度に改正した新たな健康管理のしおりを用いて指導を行った。
（6）千葉キャンパス学生厚生委員会との連携を図り、合同の会議（幹事会、寮の会議）を行った。若樹寮は、盗難や契約期間終了前の退寮希望者が出るなどの課題が見られた。龍澤祭では、連携を図ることで模擬店の食品衛生管理の必要性を確認し、初めて出店団体への食品衛生管理についての説明会を実施した。

4 点検・評価 CHECK

（1）休学11件（昨年27件）、退学11件（昨年19件）、除籍者２名と休学、退学者は昨年より減少した。退学率1.3％となった。
（2）奨学金選考および指導については適切に実施された。
（3）学生諸団体は問題なく活動していた。
（4）龍澤祭は問題なく実施され、周囲からは好評を得た。
（5）感染症対策と予防接種は適切に実施し、臨地実習の対象者の接種率は100％であった。
（6）千葉キャンパスの学生厚生委員会と合同の幹事会を２回、寮運営委員会を１回開催した。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）退学者、除籍者数を減少させるために、学科、アドバイザー、学生支援・商談者会との連携を図り早期に必要な学生支援を行う。
（2）奨学金受給者の適切な選出および、適格認定「警告者」を少なくするよう学生指導を行う。
（3）龍澤祭運営について千葉キャンパスと協働し、実施する。また、29年度から始めた模擬店の食品衛生管理の指導や助言を行う。
（4）若樹寮の運営について千葉キャンパスと連携しながら、問題を最小限にとどめる。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

3　学生支援②〔学習支援〕

関連委員会	学習支援委員会、キャリア支援委員会、看護学科、栄養学科
関 連 部 署	事務部（学習支援室、キャリア支援室）
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

＊入学前および入学時の基礎学力確認テスト、補習講座、学習支援室などに対し、専門業者や本学教員にどのように関わってもらうかについて、継続的に議論する。
＊ e−ラーニングを、平成29年度当初から運用できるようにすべく準備中であり、誰もが利用しやすいシステムにしていく。
＊学習支援室を利用したり、寺子屋に参加せざるを得ないような雰囲気をクラス全体にもたらすための方策を種々検討する。

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）新入生の大学生活へのスムーズな移行を促す。
（2）成果指標　成績低迷者（1年次生～3年次生）の基礎学力および成績の向上を図り、学習サポートへの参加率を90％以上と共に、GPA2.0以下の学生の割合を減らす。
（3）成果指標　2年次・3年次の学生が、自身の学習の習熟度を認識することを促すために、それぞれ1回ずつ低学年模試を実施する。
（4）学習支援システム（e−ラーニング）の整備と学習支援室の利用促進を図る。

2　具体的計画　*PLAN*

（1）入学前セミナー、入学前課題、新入生オリエンテーションにおける基礎学力確認テストを通して、自身の学力把握やスムーズな移行を支援する。また、アンケートを実施し、学生の現状と教育ニーズを把握し、必要な支援を実施する。
（2）看護学科・栄養学科1年次では、基礎学力確認テストの結果に基づきサポート対象となる学生を決定し、学習方法・学習習慣について講座を行う。また、学習習慣の確立に向けた定期的かつ継続した指導を行う。後期は、GPAの低い学生を対象に学習支援を継続する。看護学科・栄養学科の2年次・3年次は、学年ごとに、GPAの低い学生を対象に学習支援プログラムを実施する。
（3）2年生、3年生を対象にe−ラーニングを用いた自己学習の促進と、低学年模試を1回実施する。
（4）e−ラーニングの教員への周知を行うと共に、国家試験対策に向けた内容の充実を図る。また、低学年の学生の効果的な学習支援に向けて内容の充実を図る。学修支援室については、キャリア支援委員会と相談しながら、学生が利用しやすい曜日と時間帯を勘案しながら、開室日・時間、担当者を決定する。

3　取組状況　*DO*

（1）基礎学力確認テストで60点以下の学生を対象に、5月に大学生活移行サポートの会を実施した。前期定期試験前の期間、学習習慣を確立することを目的に、学習時間振り返りシートを提出、前週のシートを返却する課題を課した。
（2）1年時後学期は学科別の支援とし、栄養学科は前期復習テストの結果で、看護学科は前期のGPAを基準にサポートを実施した。栄養学科の2年次生・3年次生は、9月の模試における得点が70％以下の学生を対象に復習ノートの作成を課した。看護学科の2年次生はGPA2.0以下又はe−ラーニング不合格者を対象に、3年次生は低学年模試の成績の下位27名を対象に学

修支援を実施した。

（３）栄養学科の２年次・３年次は、それぞれ夏休みｅ−ラーニング課題と９月に自作の国家試験対策模試を実施し、看護学科は、ｅ−ラーニングを用いた課題による知識の定着を図ると共に、２年次は９月に、３年次は６月と翌３月に低学年模試を実施した。

（４）ｅ−ラーニングの全体管理を行う責任者を、学科毎に１名決定した。また、２年次・３年次の自己学習にｅ−ラーニングを用いた学力チェックを実施した。しかし、時間的な問題から、看護学科の教員に周知する機会を持つことが難しかった。学習支援室には、毎週木曜日に３時間学習支援室担当の非常勤教員を配置した。学力強化対象学生を中心に、学習支援室の利用を随時促した。また、キャリア支援委員会と協働し、補講を担当してもらった。

4 点検・評価 CHECK

（１）対象学生53名中、大学生活移行サポートの会への参加率は94％（欠席：看護１名、栄養２名）であった。看護学科の振り返りシートの提出率は71％〜96％、栄養学科は６月の提出率は64.3％〜96.4％であった。

（２）成績低迷者への支援は、学年別・学科別に委員会の担当者とアドバイザーで協力して行うことが出来た。栄養学科２年次の課題提出率は95.5％、３年次は95％であった。看護学科は、２年次の参加率は63％〜89％、３年次生は100％であったが、継続が困難な学生も散見された。

（３）両学科で予定していた低学年模試を実施することが出来た。

（４）学習支援システムの整備は、昨年度から継続している栄養学科所属の担当教員が中心となって行った。看護学科でｅ−ラーニングを用いたのは、学習支援委員の教員のみにとどまった。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（１）入学前セミナーの継続に加え、「主体的な学びの手帳（学生生活手帳）」を用いて、大学生活へのスムーズな移行と学修習慣の獲得への支援を行う。

（２）学力強化学生への支援内容と支援方法を検討し、参加率を向上する。

（３）ｅ−ラーニングの整備や学習支援室担当教員の役割の明確化を図る。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

4　進路支援

関連委員会	キャリア支援委員会、学習支援委員会、看護学科、栄養学科
関連部署	事務部（キャリア支援室）
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

国試対策について、看護学科では従来の支援・対策方法を変える可能性も踏まえて対策を講じる。栄養学科では、国試実施が３月初旬となるため早めの対策が課題である。学習支援委員会との更なる連携強化を図り、４年次前までに学習習慣を身につけるよう支援する必要がある。

就職支援では、看護師就職においても買い手市場への変化に対応すべく全員対象としたESや面接対策を考える。栄養学科では様々な業種の就職先に対応したアドバイスができる専門的知識をもつスタッフの役割が重要である。

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（１）国家試験対策

成果指標　国家試験合格率を看護師、保健師はともに100％、管理栄養士は管理栄養士養成校新卒全国平均以上とする。

（２）就職・進学支援

成果指標　・就職希望者の就職内定率を看護学科、栄養学科ともに100％とする。

成果指標　・進学希望者の支援

・公務員就職希望者の支援

成果指標　・卒業１年後の定着率の把握。定着率は看護学科90％、栄養学科70％とする。

2　具体的計画　*PLAN*

（１）国家試験対策

看護学科において、国家試験模擬試験（看護師５回、保健師３回、受験率100％）、対策講座（外部講師・学内教員、出席率100％）を実施し、アドバイザー教員と連携した学習状況の把握、学習支援を行う。学生からなる国家試験対策委員による模試の運営、学習環境整備、講座内容の検討等の主体的な学習体制を整える。栄養学科において、国家試験模擬試験（月１回）、対策講座（専門業者、学科教員）を実施し学習支援を行う。３年生対象に模試を実施し、国試に向けた学習習慣の獲得を図る。

（２）就職・進学支援

学生の就職希望先にあった支援をキャリア支援委員会、キャリア支援室とアドバイザー教員の協同で行う。両学科を対象にES記入や面接対策、就職状況の随時把握、看護学科を対象に、マナー講座、就職個別相談会、病院説明会・奨学金説明会、栄養学科を対象に、３年生への筆記試験対策、キャリア国試懇談会、就職支援講座やガイダンス、インターンシップ参加を勧め、低学年への資格と仕事を知ろうガイダンス、おしごとセミナーの開催を実施する。進学希望者の把握と受験対策をアドバイザー教員と連携して行う。公務員試験対策講座を実施する。

3　取組状況　*DO*

（１）国家試験対策

看護学科では、模擬試験（看護師５回、保健師３回）・アドバイザー教員からの結果返却と学習支援、対策講座（外部講師－看護師30コマ・保健師６コマ、学内教員）、個人面談、学力強化

学生への支援（「がんばろうクラス」外部講師講座30コマ、学習支援室による模試復習）、模試アレンジ問題（「100本ノック」看護師５コマ、保健師４コマ）を実施した。学生の国家試験対策委員による主体的な学習体制をとり、その支援をした。栄養学科では模擬試験（13回）・再試、対策講座（前期週３日、後期週５日１、２限演習、３、４限自習、学科教員）、外部講師による講座（夏期３日間、10～２月90分×２コマまたは３コマ／週）、低迷者への補習およびキャリア支援委員による面談と学習アドバイスを実施した。３年生には模試２回（１月、２月）を実施した。

（２）就職・進学支援

学生の就職希望に応じた支援をキャリア支援委員、キャリア支援室およびアドバイザー教員との連携を図り実施した。就職状況の随時把握、内定の届出の呼びかけを行い、個別支援を行った。マナー講座・学内就職合同説明会（看護学科）、筆記試験対策・就活国試懇談会・キャリア支援ガイダンス・資格と仕事を知ろうガイダンス・おしごとセミナー・インターンシップ参加の勧め（栄養学科）を実施した。進学希望者の把握と受験支援を実施した。外部講師による公務員試験対策講座（６月９コマ、３月３コマ）を実施した。

4 点検・評価 CHECK

（１）国家試験対策

国家試験合格率は、看護師新卒99.1％（106／107名）、保健師新卒96.6％（28／29名）、管理栄養士新卒82.5％（52／63名）であった。

（２）就職・進学支援

就職希望者の就職率は両学科共に100％であった。進学希望者の進学率は100％、助産師課程２名（看護）であった。定着率の把握については、看護学科はアンケート実施、栄養学科は調査方法を検討した。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（１）国家試験合格率の目標（看護師・保健師100％、管理栄養士　新卒全国平均以上）を達成するため、これまでの支援・対策を検証した上で引き続き実施する。

（２）進路に関する支援（就職・進学）では、キャリア支援委員会、キャリア支援室とアドバイザー教員が協同して学生のニーズに対応しながら進める。卒後の定着率把握では本学部にあった調査内容・方法を検討する。

（３）資格取得のための試験実施や各種手続き等の支援を滞りなく進める。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

5　研究活動

関連委員会	学部長、研究倫理審査委員会、研究公開委員会
関連部署	事務部、教育研究支援センター
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

（1）紀要について
　２年前から投稿者が少しでも時間的な余裕が持てるように、発行日を遅らせ、原稿締め切り日を例年より半月遅らせ11月８日として投稿の便宜を図った。次年度も今年度と同様のスケジュールで進めてもよいと思われる。
（2）研究報告会について
　本年度と同様に、早期に開催日時を決定し、参加を促す必要がある。
　開催日時は今年度も参加しやすい日程、時間帯を選んだつもりであったが、さらに検討して決定する必要がある。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）成果指標　担当科目に関わる研究業績：各教員、学会発表・論文等、年１本以上
（2）成果指標　地域との共同研究を平成29年度から３年間続行し、結果を報告する。

2　具体的計画　PLAN

（1）ア．学会発表・論文、年１本を教授会にて周知する。
　イ．研究公開委員会にて学内学術研究発表会をおこなう。
　ウ．倫理審査委員会にて申請数を増加させる（平成28年13件）（第二キャンパスのみ）
　エ．外部研究資金獲得に関する勉強会、倫理審査採択のための方策の勉強会をおこなう。
（2）自治体や企業との共同研究２件以上とする。

3　取組状況　DO

（1）ア．学会発表、論文発表について適宜、教授会で話題にした。
　イ．研究報告会を８月に実施した。看護栄養学部紀要の申請は５件となった。
　ウ．研究倫理審査委員会における審査は計画通り実施した。
　　研究倫理審査委員会では、迅速審査、遡及審査を開始した。H30年度から新しく淑徳大学研究倫理規準（COIマネージメント規程含む）が作成される予定である。千葉第二キャンパスはCOIの体制整備を行った。
　エ．科研費の採択に向けた説明会を２回実施した。「ヒトを対象とした研究における倫理的配慮」の研修をFD研修会として実施した。
（2）共同研究は９件採択された（うち厚労省科研４件含む）
　学内研究推進事業では、①看護栄養学部看護学科助手研究促進（助手教育研究支援）、②淑徳認知症Cafe」、③看護栄養学部栄養学科助手研究促進（助手教育研究支援）３案が採択された。

4　点検・評価　CHECK

（1）ア．学会発表、学術論文発表は活発に行われた。
　イ．研究報告会を８月に実施した。看護栄養学部紀要の申請は５件となり、計画通りとなった。
　ウ．研究倫理審査委員会にて審査された件数は13件であった。
　エ．出席率は100％であった。
（2）共同研究は２件が目標であったが、９件の申請があった。

学内研究推進事業では、３案が採択され、計画よりも多くの学部資金獲得による研究が採択された。

5 次年度に向けた課題 ACTION

・平成30年度も淑徳大学教育研究推進事業の採択、外部研究資金獲得を継続させる。（10件以上を目標とする）
・倫理審査委員会の申請数の10％増を目指す。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

6　社会貢献〔地域連携委員会〕

関連委員会	地域連携委員会
関 連 部 署	事務部、地域連携センター、地域支援ボランティアセンター
関連データ	2017年度淑徳大学看護栄養学部「ボランティア講座・地域連携事業報告書」

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

（1）地域との連携強化をはかる。
　ア　松ヶ丘地区との協働連携事業を継続する。
　イ　千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘との連携を進める。
　ウ　学生・教員と地域住民との交流の機会を増やし、相互理解を進める。
（2）ボランティア講座登録学生の60％を修了に導くとともに、講座のあり方についての検討に着手する。
（3）教職員・学生・地域住民間において、地域連携に関する情報共有・発信を進める。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）成果指標 地域との連携強化をはかる。
　ア　松ヶ丘地区との連携協働事業を継続する。
　イ　千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘との連携を強化する。
　ウ　地域活動への学生・教員の計画的な参加、相互理解を進める。
（2）成果指標 ボランティア講座登録学生の60％を修了に導く。
（3）本学における地域連携活動の情報共有・発信により地域との関係性を強化していく。
（4）成果指標 高齢者介護予防に関する地域課題解決のためのアクションリサーチを進める。

2　具体的計画　PLAN

（1）地域との連携強化をはかる。
　ア　松ヶ丘地区地域ふれあい広場「ひだまり」における健康・栄養講話、健康相談（毎月２回）、千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘における健康講話を年２回実施する。
　イ　松ヶ丘地区および近隣病院・施設からの学生ボランティアの要請にこたえる。
　ウ　地域における各種定例会議（松が丘中学校区運営会議など年25回）へ出席する。
（2）ボランティア講座登録学生の60％を修了に導く。
　ア　ボランティア講座受講学生の興味・関心に応じた参加の支援、受け入れ先との連絡・調整により円滑な実践・修了につなげる。
　イ　ボランティア講座の成果発表および本学の広報活動としての報告書を作成する。
（3）本学における地域連携活動の情報共有・発信により地域との関係を強化していく。
　ア　教職員による地域住民・施設の協力を得た教育・研究活動の実施状況を把握する。
　イ　松ヶ丘中学校区地域運営委員会HP等で本学の地域連携活動の周知・広報を行う。
（4）高齢者介護予防に関する地域課題解決のためのアクションリサーチを進める。

3　取組状況　DO

（1）地域との連携強化に関しては、教員による健康講話を計画通り実施した。学生ボランティアに関しては、ボランティア講座受講生以外の学生にも呼びかけ、参加があった。地域における各種定例会議（松ヶ丘中学校区運営会議など年間25回）へは積極的に出席したほか、学生ボランティア実践には可能な限り教員の引率をし、関係づくりにつとめた。
（2）ボランティア講座に関しては、修了率は49％（32／65名）であった。なお、ボランティア講

座報告書を３月に発刊し、学生、教員、近隣施設に配付した。
（３）地域住民等の協力を得た教員の活動実施状況を年度当初に把握し、周知した。また、本学部の取組みは、千葉テレビと大学新聞で取り上げられた（２月）。
（４）ボランティア講座リピーター学生の対応・支援のあり方を検討する資料を収集したほか、地域に保管されている非常食の有効活用に関する提案を行った。
（５）地方自治体、企業等との連携による社会貢献の事業数はこれまでの事業（３事業）を継続したほか、千葉市のノリ組合や千葉市加曽利貝塚における縄文期の食研究など８件の実施であった。委員会組織として認知症カフェ事業・研究の立ち上げ・実施に関与した。

4 点検・評価 CHECK

（１）教員による地域貢献活動は、本学の教育研究活動への協力をいただくことにもつながり、「Win－Win」の関係が構築されているととらえている。また、学生のボランティア実践は本学の建学の精神を具現化することにつながっている。
（２）ボランティア講座は学生のボランティア活動へのきっかけ作りとして有効であったが、必修授業の多さで辞退した登録学生もいた。地域からは学生の力が期待されており、メディアにも取り上げて頂いたが、実際には需給バランスの課題がある。
（３）数値評価としては、教員による地域での健康講話、自治体・企業との連携事業件数は目標を達成し、地域における各種定例会議、ボランティア実践の引率も90％の実施率であったが、ボランティア講座受講修了率に関しては当初目標の60％に届かなかった。
（４）委員会活動評価としては80点とする。教員による地域貢献活動に対して、学生ボランティア要請の期待に十分応えられているとは言えない。また、ボランティア講座での活動の引率、地域における各種会議への出席など各委員の土日勤務が多い。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（１）松ヶ丘地区との連携は今後も引き続き行い、地域貢献を進めていく。
（２）ボランティア講座のあり方、リピーター学生への教育については引き続き検討する。具体的には必修科目の多い本学部で単位化されないボランティア講座を学部教育としてどのように位置づけるのか、今一度検討する必要がある。
（３）委員の土日出勤が多く、軽減策を検討していく必要がある。
（４）自治体・企業との連携事業は相手先の事情等で必ずしも安定しているとはいえず、年度による取り組み件数に差が生じることが見込まれている。地域のニーズの発掘、アウトリーチについて、委員会と各研究を推進する教員とでの協議・検討の場の必要性について考えていく。

看護栄養学部　看護学研究科

7　図 書 室〔千葉第二〕

関連委員会	図書室運営委員会
関 連 部 署	図書室（事務室）、事務部
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

（1）適正な選書の実践
（2）図書室の環境整備と、学生の図書利用の向上
（3）教育場面での図書利用の推進を図る
（4）On line systemの活用の推進
（5）ラーニングコモンズ活用へ向けて

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）適正な選書・購入の実践
（2）成果指標　図書室の環境整備と、学生の図書利用の向上
（来館者数6％増・貸出数5％増）
（3）教育場面での図書利用の推進を図る
（4）成果指標　On line systemの活用の推進
（5）成果指標　ラーニングコモンズ活用へ向けて（利用件数10％）
（6）機関リポジトリの推進
（7）大学院図書利用の向上

2　具体的計画　PLAN

（1）図書予算に基づいた適正に選書・購入、購入内容の公表。
・図書購入に向けた新刊図書を中心とする内覧会の開催
（2）図書の環境をより向上させ、学生の図書利用をさらに充実化。
・各学科の領域・教員による企画展示の充実とテーマ展示の実施
・図書室利用ガイダンス（図書ツアー）の実施
（3）教育場面での図書利用の推進を図る：全教員による介入。
（4）On line system活用のため、利用方法の浸透を図る。
・On line system活用ガイダンスの実施
（5）ラーニングコモンズでのイベントを積極的にしかける。
（6）機関リポジトリの推進のため、オープンアクセスに向けての道筋の構築。
（7）大学院生図書利用の向上のため、貸し出し条件を検討。

3　取組状況　DO

蔵書冊数は、2018年3月31日末39,608冊である。（視聴覚資料、電子ブック含む）
（1）平成29年度の図書選書予算に基づき選書・購入を適正に実施、隔月報告。
ア　外国雑誌値上がりへの予算対応および専門図書の内覧会を4回実施
（2）図書の環境をより向上させ、学生の図書利用をさらに充実
ア　図書の環境整備：①アンケートにより図書配置の見直し実施
イ　学生の図書利用：①4－12月貸出冊数看護学科平均2.62、栄養学科平均0.87冊
「読書ポイントカード」実施。②雑誌バックナンバーを貸出可とした。
（3）教育場面での図書利用の推進：（1）各教員による月替りのテーマ展示（12回）（2）実習期間に合わせた閲覧時間の延長や開館の実施。（3）on line systemの活用のガイダンスを5月に4回

（4）ラーニングコモンズの運用：コンサート3回、掲示板2面設置。
利用実績（平成29年4月～12月）調理実習室52件、ラーニングコモンズ102件、入室者数累計1,098名、貸出件数　ノートPC　1,730件、タブレット　418件、プロジェクター　13件、印刷機カウンター　1件
（5）学術成果物のJAILO Cloud上での公開：大学図書館、学部研究公開委員会と調整をした。
（6）大学院図書利用の向上：文献検索データベースのガイダンス。貸出冊数の上限増加をはかった。

4 点検・評価 CHECK

（1）平成29年度の図書選書予算に基づき、図書と視聴覚資料の選書・購入を適正に実施。隔月ごとに、現状の報告。内覧会も利用され、選書につながった。
（2）図書利用の充実を図ったことにより、学生の貸出冊数は前年比5.9％増の15,559冊となり、目標の5％増を達成した。また、来館者数においては51,012名で前年比5.7％増となり、目標の6％増を概ね達成した。
（3）on line systemの活用を推進するためのガイダンスを例年よりも充実。
（4）ラーニングコモンズの利用促進により年間利用件数は122件で前年度の45件を大幅に上回った。（ただし前年度は9月からの統計）
参考まで月平均では10.2件（前年度6.4回）
（5）平成29年度の委員会活動評価　80点
・図書室利用促進を図り、入館者数が前年度を上回った。
・ラーニングコモンズの利用促進に向けた新たな企画を実施した。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）図書予算内の分配の見直し
（2）適正な選書の実践
（3）図書室の環境整備と、学生の図書利用の向上（特に低学年生）
（4）教育場面での図書利用の推進を図る
（5）On line systemの活用の推進
（6）ラーニングコモンズ活用へ向けて
（7）大学院生図書の利用の推進

以上

看護栄養学部　看護学研究科

8　自己点検・評価

関連委員会	自己点検・評価委員会
関 連 部 署	事務部、大学改革室
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

（1）各学科、各委員会の活動にPDCAを継続して実施するとともに、学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。
（2）次年度は、平成28年度までの目標の達成度を検討し、さらに今後の学部の目指す方向性の明確化を図る。
（3）学科、各委員会の活動評価を数値化し、向上度が明確となるよう自己点検評価委員会の役割を果たす。
（4）年報編集作業を、計画に沿って進め予定期日に発行できるよう準備する。

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）成果指標　ア　各学科、各委員会の作成した活動計画は、前年度の課題を前提にPDCAサイクルが活用されているか、自己点検評価委員会で点検を行う。
　　イ　各学科、各委員会の提出した報告書を、自己点検評価委員会で点検評価する。
（2）平成29年度の教育目標、成果目標を教授会で提示し、周知徹底を図る。
（3）成果指標　各学科、各委員会は目標達成度を評価し、可能な限り数値化することを目標とする。
（4）大学年報は大学自己点検評価の一環として、PDCAの取り組みを公表するものとして編集する。

2　具体的計画　*PLAN*

（1）ア　各学科、各委員会より、4月末日を目標に活動計画を提出させ、自己点検評価委員会で点検を行う。学部学科の年度方針と合致しているかについて各学科、各委員会と調整し、5月の教授会にて報告する。
　　イ　各学科、各委員会から2月末に報告書を提出させ、自己点検評価委員会で点検評価し、3月の教授会で報告する。
（2）平成29年度の教育目標、成果目標を5月の教授会で提示し、周知徹底を図る。
（3）年度末に今年度の目標達成度を評価し、次年度の目標を設定する。なお目標達成度は、可能な限り数値化して行うこととする。
（4）平成28年度大学年報の看護栄養学部（千葉第2キャンパス）の執筆にあたり、各学科、各委員会に執筆依頼をし、原稿の取りまとめを行う。その際大学年報は大学自己点検評価の一環として、PDCAの取り組みを公表するものであるため、内容を点検評価し、完成度の高い年報となるよう努める。

3　取組状況　*DO*

（1）ア　各学科、各委員会の活動計画は、新委員会メンバーにより5月中にすべて提出された。本委員会で今年度の学部学科の方針と一致しているかについて点検し、各学科、各委員会と調整した後、5月の教授会で提案し、了承された。
　　イ　活動計画書に基づく活動報告書は2月末までに提出され、その後、報告結果を本委員会で点検評価し、3月の教授会で報告された。
（2）教育・研究・管理運営に関する目標・成果指標については、5月の教授会にて学部長より平成29年度教育目標と成果目標が提示された。
（3）平成29年度末に今年度の目標の達成度を評価し、来年度の目標について本委員会で検討する。

目標達成度は、可能な限り数値化して行った。

（4）平成28年度の大学年報の看護栄養学部（千葉第二キャンパス）の執筆にあたり、各学科・各委員会に執筆依頼をし、原稿の取りまとめを行った。その際大学年報は大学自己点検評価の一環であり、PDCAの取り組みを公表するものとして、内容を点検し、計画通り9月に発行された。

4 点検・評価 CHECK

（1）計画通り実施され、各学科、各委員会の活動におけるPDCAサイクルを確立し、スパイラルアップすることができた。また、各学科、各委員会の活動計画・活動報告の提出は100％であった。

（2）計画通り実施し、学部の目指す方向性の共有を図ることができたと考える。

（3）評価として数値評価を取り入れた委員会は、18／18委員会100％の達成率であった。

（4）年報編集作業は、大学年報編集委員会と協力し、計画に従って進められ、予定期日の発行ができた。

自己点検評価委員会活動評価80点

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）次年度も各学科、各委員会の活動にPDCAを継続して実施するとともに、学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。29年度に取り組みを始めた学科、各委員会の活動評価の数値化を習慣化し、向上度が明確となるよう自己点検評価委員が牽引役となる。

（2）次年度は、平成29年度までの目標の達成度を検討し、さらに今後の学部の目指す方向性の明確化を図る。

（3）年報編集作業を、大学年報編集委員会と協力し計画に沿って進め予定期日に発行できるよう準備する。また年報の役割、活用について検討を行う。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

9　その他①〔ハラスメント防止〕

関連委員会	ハラスメント防止委員会
関 連 部 署	事務部、総務部
関連データ	

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

活動方針：淑徳大学ハラスメント防止規定に基づき、構成員へのハラスメントを防止し、ハラスメントのない快適な学業・職業環境を保証していくための活動を行う。

活動目標：

（1）ハラスメントの発生を未然に防止する。

ア　教職員研修会　年２回以上実施　教職員実施率90％

イ　学生への啓発活動　年５回以上実施

（2）ハラスメントが発生した場合、迅速に適切な対応を行う。

（3）ハラスメントが発生した場合に、適切な再発防止策を講じていく。

2　具体的計画　PLAN

（1）ハラスメントの発生を未然に防止する。

ア　研修会を２回実施（千葉キャンパス合同１回）する。

イ　ハラスメントに関する事件等の情報を掲示板に掲示し啓発に努める。

ウ　ハラスメントの理解と相談窓口に関する情報提供を全学生に対して実施する。

エ　相談しやすい体制になるように改善につとめる。

オ　未然防止に努めるように長期休み前や海外への渡航する学生への周知を行う。

（2）ハラスメントが発生した場合、迅速に適切な対応を行う。

ア　危機管理体制と対応課程を確認する。

イ　初期相談のスキルアップと相談員の研修会を開催し、相談技術を高める。

（3）ハラスメントが発生した場合に、適切な再発防止策を講じていく。

ア　被害者の安全・安心に留意し、二次加害や再発防止に努める。

イ　具体策を検討する。

3　取組状況　DO

（1）研修会を２回実施し、１年生には入学時オリエンテーションで説明し、相談員を紹介した。２年生以上は過去の事例の説明や相談員の紹介をおこなった。

（2）相談員の研修をおこなった。

（3）２事例あった。ともに防止委員会内で解決した。

4　点検・評価　CHECK

今年度まで千葉キャンパスの委員会のもとで（目標共有）行っていたが、今年はハラスメントの案件が第二キャンパスでも発生し、昨年の目標に従って防止委員会を実施した。

5　次年度に向けた課題　ACTION

ハラスメント防止ガイドラインが平成29年度に作成されたので、それに基づいて、委員会の活動を行う。またハラスメント研修会は年に３回の参加率を100％にする。

以上

9　その他②〔保健衛生〕

関連委員会	学生支援・相談担当者会、ハラスメント防止委員会
関 連 部 署	事務部（学生相談室、保健室）
関連データ	健康管理のしおり2017、教育アドバイザーマニュアル、学生便覧

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）学生の心身の健康を良好に保つための相談体制を円滑に運用する。
（2）心身の健康について学生の相談を受ける仕組みを円滑に運用する。
（3）学生の保健衛生を向上するために適切な配慮を行う。
（4）学内での諸活動において、安全・衛生への配慮を深める。

2　具体的計画　PLAN

（1）学生の心身の健康を良好に保つための相談体制：保健室担当者、学校医も加わった学生支援・相談者会を通じて、相談体制を円滑に運用する。
（2）心身の健康について学生の相談を受ける仕組み：アドバイザー教員、保健室、学生相談室（カウンセラー）等が協働して対応する体制が整っており、必要な場合は、学校医も関与する。
（3）学生の保健衛生を向上するための配慮：授業や個別面談を通じて、学生への働きかけを深める。
（4）学内での諸活動での安全・衛生面での配慮：感染症予防法に基づく学生の衛生管理を進める。

3　取組状況　DO

（1）平成29年度は、５／29、６／26、11／７に学生支援・相談担当者会が開催された。幼少時から予防接種を忌避してきた学生におけるインフルエンザ予防接種の可否、予防接種関連の各種文書の見直し、授業参加が困難になりつつあった学生への対応、持病がある学生の実習対応を議論した。
（2）心身の健康に関する学生からの相談を受ける仕組みとしてこちらの体制等が記載された健康管理のしおりを作成・配布し、周知に努めた。
　アドバイザーの初動対応については適切になされた。修学が困難になった学生に対して、教員、家族、本人との面談を繰り返し実施し、対応策を講じた。領域実習期間中に、不調が生じた学生に対しては、面談を繰り返し実施し、今後の方針を確認した。
（3）平成29年度は、８月下旬～９月上旬、看護学科・栄養学科の全学年（１～４年生）に対して、授業の冒頭を借り、「インフルエンザワクチン接種の意義」を学生に周知した。
　その他学内での集団感染予防対策として、掲示・S-Naviによる注意喚起、学内各所に消毒液の設置等を実施している。
（4）従来通り、看護学科・栄養学科の両学科において、実習に備えて、入学時、麻疹、ムンプス、風疹、水痘（MMRV）に対する抗体をチェックするとともに、インフルエンザワクチンとB型肝炎ワクチンの接種を勧めた。

4　点検・評価　CHECK

（1）学生支援・相談者会は、学生の心身の健康を良好に保つための相談体制として適切に機能した。
（2）心身の不調を訴える学生からの相談に対して、アドバイザーの初動対応を含めて、おおむね適切な対応を実施できた。
（3）「インフルエンザワクチン接種の意義」を学生に周知することにより、インフルエンザワクチンにおいてある程度の接種率を確保できた。
（4）感染症予防法が医療従事者・関与者に勧める衛生管理を実現できた。

5 次年度に向けた課題 ACTION

平成29年度の活動方針に対して、平成30年度も同様な試みを進める。特にアドバイザー教員、保健室、学生相談室及び関連委員会との連携を強化することで、学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮策を充実する。

以上

平成29年度　千葉第二キャンパス（看護学研究科）レビュー

1．平成29年度振り返り

●学生募集（取組み、成果）

入学定員５名のところ、初年度の入学生は５名、昨年度は６名、今年度は５名と、順調に定員を確保できている。今年度は入試説明会を５回に増やし、大学院パンフレットを学部卒業生の１～５期生と近隣の医療施設関係者に送付して受験者数の増加に向け、積極的な取り組みを行った成果が表れたと考える。

また、科目等履修生の入学は２名であった。

●正課活動（取組み、成果）

高度な専門性を有した人材として必要となる理論的知識と応用的能力を体系的に身につくよう授業科目を配置した本研究科のカリキュラムに沿って、滞りなく授業が展開された。授業の中で学生間のディスカッションによる学びの深まりを感じられたとする教員が多かった。

研究指導はスケジュールに則り、主査・副査（副指導教員）の決定、研究計画発表会、中間発表会の開催による指導を行った。

２年コース２年目の学生１名の修士論文が提出され、主査・副査による論文審査及び口述試験が行われ、研究科委員会にて修了が決定し、初の修了生を送り出すことができた。研究指導体制および審査体制を整えつつ構築することができたと考えている。

●正課外活動（取組み、成果）

田宮仁先生による特別講演会を11月18日（土）に開催し、学生・教員併せて15名の参加があった。

●その他

教員組織については教育課程の充実のため新たな編成を図り、研究科の科目を４名の教員に新たに担当していただく体制を整えることができた。これに伴い、教育課程の改正を目指したが実現できなかった。

2．次年度への課題、方策

（１）さらなる広報活動の実施
（２）平成31年度からのカリキュラム改正および教員組織編成の検討
（３）将来構想検討会の活動開始（看護学研究科の学術雑誌創刊の検討、総合福祉研究科との連携による教育・研究活動、看護学研究科の特色・強み等）

以上

1　学生の受け入れ

関連委員会	看護学研究科委員会
関 連 部 署	事務部
関連データ	

平成28年度大学年報　**【次年度に向けた課題】**

- 今年度は入学定員を確保できたが、今後に向けてさらに広報活動に力を入れる必要がある。来年度の入試説明会は学部オープンキャンパスと同時開催とし、大学院の存在を強くアピールする場とし、受験生増加を目指す。
- 看護学研究科の情報をホームページに掲載するタイミングが遅くなる傾向があるため、大学広報との連携を密にしていく必要がある。
- 科目等履修生の募集について、選考期間が遅く短期間であるため、次年度以降は新入生が履修予定の科目を早い時期にホームページに公開し募集を行い、３月までに選考を行う方向での検討が必要である。また、科目等履修生の増加に向けた活動を検討する必要がある。

1 平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）入学定員（５名）の確保に向けた広報活動に力を入れる
（2）科目等履修生の募集時期を早め、科目等履修生の増加（２名以上）に努める

2 具体的計画　PLAN

（1）入学定員の確保に向けた広報活動
　平成29年度の入試説明会は学部オープンキャンパスと同時開催とし、看護学研究科の存在を強くアピールする場とし、受験生の増加を目指す。
（2）科目等履修生の増加
　平成29年度の科目等履修生の募集は、第２回入試の後、開講予定科目を早い時期にホームページに公開し、募集を行い、３月末までに選考を行う方向で検討する。また、科目等履修生の増加に向け、実習病院に早めに情報提供を行う。

3 取組状況　DO

（1）入学定員の確保に向けた広報活動
　看護学研究科入試説明会は学部オープンキャンパスと同時開催とし、６月から10月にかけて５回開催した。大学院パンフレットは、在学生の声を掲載し、奨学金や研究費補助金について強くアピールすることに留意して６月までに作成した。入試説明会にて参加者にお渡しするとともに、看護学科卒業生の１期生から５期生へ発送した。大学院入試要項は、近隣の実習施設や卒業生の就職先等253箇所に発送した。
（2）科目等履修生の募集
　平成29年度の科目等履修生は２名であった。平成30年度科目等履修生の募集日程等については、出願手続期間は平成30年２月５日（月）から平成30年３月20日（火）、選考期間は平成30年３月１日（木）から平成30年３月30日（金）、入学手続期間は平成30年３月１日（木）から平成30年４月５日（木）とした。入学資格審査申込期間は平成30年２月１日（木）から平成30年２月28日（水）とした。また、平成30年度開講科目表も平成30年２月５日からホームページに掲載した。

4 点検・評価　CHECK

（1）入学定員の確保に向けた広報活動

学部オープンキャンパスに合わせ、入試説明会を全５回開催した。総参加者数は６名であった。

第１回目　６月25日（日）　参加者４名
第２回目　７月23日（日）　参加者０名
第３回目　８月　６日（日）　参加者０名
第４回目　８月20日（日）　参加者１名
第５回目　10月29日（日）　参加者１名

今年度の入学試験状況は、７名受験、５名合格、５名入学手続き完了であった。

第１回入試（９月30日（土））　受験者４名　合格者２名　入学手続者２名
第２回入試（１月27日（土））　受験者３名　合格者３名　入学手続者３名

入学生定員を確保することはできたが、今後一層受験生増加に向け、広報活動に力を注ぐ必要がある。

（２）科目等履修生の募集

科目等履修生の告知期間や応募期間、選考期間、手続き期間等の期間を早め、延長し、より多くの応募者を集めるよう修正した。応募者数は２名あり、２名ともに選考の上、合格となった。今後、科目等履修生の増加に向け、卒業生や近隣施設へ募集要項の送付等も検討が必要である。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（１）入学定員の確保
（２）科目等履修生の増加

以上

看護栄養学部　看護学研究科

2　教育課程①〔教育課程の編成・取組み〕

関連委員会	看護学研究科委員会
関 連 部 署	事務部
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

・平成30年度からのカリキュラム改正および教員組織編成の検討
・研究指導および審査体制の構築（指導教員、主査・副査等）

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）平成30年度からのカリキュラム改正および教員組織の新たな編成を行う
（2）研究指導および審査体制を構築する（指導教員、主査・副査等）
（3）将来構想検討会の活動を開始する

2　具体的計画　PLAN

（1）平成30年度以降の教員の異動に伴い、新たな教員の資格審査を行い、教員組織の編成を整える。それとともにカリキュラムの改正案を検討し、７月の研究科委員会で新たなカリキュラムを決定する。
（2）主査・副査および指導教員・副指導教員に関する指導体制について検討を行い、７月の研究科委員会までに決定する。
（3）将来構想検討会で看護学研究科の将来像の具体的な検討を開始する。（博士前期課程、博士後期課程それぞれの教育研究目標の明確化等）

3　取組状況　DO

（1）平成30年度からのカリキュラム改正及び教員組織の新たな編成

資格審査内規を整備し、７月と２月に資格審査委員会を開き、教員資格審査を行った。その結果、４名の教員及び担当科目を決定し、学長及び研究科委員会に報告した。

カリキュラムについては、改正案を９月に教育課程編成委員会に提出したが、その後、11月の大学協議会において、１期生が修了し、カリキュラム自体を検証してから変更すべきとの回答があり、改正することができなかった。

（2）研究指導および審査体制の構築

主査・副査の選定条件や研究指導体制について検討し、６月に「主査・副査の決定に関する申し合わせ」を作成し、研究科委員会にて承認された。研究指導体制としては、主査１名・副査２名が決定した後、指導教員以外の２名を副指導教員とし、主となる指導は指導教員が行うが、適宜必要に応じて副指導教員の指導も仰ぎつつ研究指導を行い、少なくとも３回は副指導教員の指導を受けることとした。

９月に３年制コース２年目の学生３名の指導教員・副指導教員（主査・副査）について研究科委員会にて承認され、修士論文中間研究発表会・研究計画発表会を９月28日に行い、２年コース２年目の学生１名と３年コース２年目の学生３名が発表を行った。また、１月に２年コース１年目の学生１名の指導教員・副指導教員（主査・副査）について研究科委員会にて承認され、２月24日にその学生１名の研究計画発表会を行った。

研究指導スケジュールについて見直し、現実に見合ったスケジュールに修正し、10月の研究科委員会にて承認された。

12月に２年コース２年目の学生１名の修士論文の提出があり、主査・副査による論文審査及び２月24日に口頭試問が行われ、判定結果が同日の研究科委員会に報告され、修了が決定した。

（3）将来構想検討会の活動開始

将来構想検討会を発足し、第1回の検討会を6月22日（木）に行い、完成年度を迎えるにあたっての授業科目および担当者の見直しについてと、看護学研究科の今後の展望についての意見交換を行った。

4 点検・評価 CHECK

（1）平成30年度からのカリキュラム改正及び教員組織の新たな編成

カリキュラムの改正は認められず、行うことができなかった。教員組織については教育課程の充実のため新たな編成を図り、研究科の科目を4名の教員に新たに担当していただく体制を整えることができたが、「地域看護学特論Ⅰ」の担当教員を確保することはできなかった。

（2）研究指導および審査体制の構築

研究指導スケジュールに則り、主査・副査（副指導教員）の決定、研究計画発表会、中間発表会の開催による指導、修士論文の提出後の論文審査、口頭試問、修了判定を行うことができた。初めての修了生ということで、細かな点において不備もあったが、その都度研究指導体制および審査体制を整えつつ構築することはできたと考えている。

（3）将来構想検討会の活動開始

今年度は将来構想検討会を1回しか開催しなかったが、平成30年度は修了生を輩出後の新たな段階に向けて、将来構想の検討をより活発化させる必要がある。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）平成31年度のカリキュラム改正と教員組織の新たな編成および将来構想検討の推進

（2）教育の充実、適切な研究指導および学位審査の実施

以上

看護栄養学部　看護学研究科

2　教育課程②〔ＦＤ〕

関連委員会	看護学研究科委員会
関 連 部 署	事務部
関連データ	

平成28年度大学年報	【次年度に向けた課題】
・授業アンケート、教員アンケートの実施	

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

1）研究科授業アンケートを適正かつ確実に実施する。
2）研究に関わる教員の質向上に向けた講演、または研修会を企画・実施する。

2　具体的計画　PLAN

1）① 昨年度同様の授業アンケート用紙を用いて、開講されている全科目の授業アンケートを実施する。
② 授業アンケートの見直しを行ない、より学生の授業に反映できるようにする。また、授業アンケート結果をまとめ、年度末に報告書を作成する。
2）① 研究科の教員に限定せず、看護栄養学部の全教員および大学院生を対象として、研究に関わる質向上に向け、外部講師を招聘した講演会を開催する。
② 研究に関するスキルアップを図るうえで、最新の情報や知識を身に付けることをねらいとして、教員の意向を聴取し、データ解析ソフトウェア、または文献管理等に関する学内教員研修会を実施する。

3　取組状況　DO

1）院生授業アンケートについては、講義・演習科目で、前学期・後学期とも全科目において、担当教員を介して適正で確実な実施を目標とした。また、教員評価についても同様に全科目で実施した。教員評価における院生へのフィードバックについては看護研究科長を通して全科目において実施した。
2）研究科主催の研修会については、2017年９月21日　テーマ「ヒトを対象とした研究における倫理的配慮」と題して、本学部倫理審査委員長である、林雅晴教授に依頼し、実施した。また、併せて、COI（利益相反）、文献の整理方法にも幅を広げて講演を依頼した。当日の院生の参加は８名であった。また看護学科・栄養学科教員、事務職にも働きかけ参加を促した。

4　点検・評価　CHECK

1）授業アンケート
　平成29年度、活動計画案通りに全科目において実施できた。合わせて、教員評価を院生にフィードバック出来たことは、学習への振り返りや今後の課題が明確になったことで効果的であったと考える。
　科目によっては受講生が１名ということもあり、アンケートへの率直な回答ができているかといった公正さの課題があることや、同様の理由から自由記述欄への記載をしづらいこともありうる。この点をオリエンテーション時確実に伝達していく必要がある。実施方法については、次年度も同様の方法で行なう。
2）教員研修
　院生、教員の教育向上に向けた研修会を９月に１回実施した。内容から考えると研究計画書の作成にあたる院生にとっては時期に合ったテーマであり、効果的であったと考える。次

年度は院生および教員の意向も汲み取り、関心のある、または研究スキルの向上に関連したテーマを選定するために、院生や教員へのアンケート実施なども選択に入れたテーマの決定をしていく。

教員の研究スキル向上を図ることや最新の研究に関する情報収集など、大学院教員としての教育力向上に向けた研修会・研究学会への参加が可能か否か、次年度に向けた検討事項とする。

5 次年度に向けた課題 ACTION

1）授業アンケートの効果的な実施
2）大学院生、教員に対する質的向上に向けた研修会の実施
3）大学院教員の教育力向上に向けた研修会・研究参加出張の許可に関する検討

以上

3　研究活動

関連委員会	看護学研究科研究倫理委員会
関連部署	事務部
関連データ	

1 平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）倫理審査の円滑かつ迅速な運営を行う。

2 具体的計画　PLAN

（1）倫理審査の円滑かつ迅速な運営

ア　平成29年度は研究科における研究倫理審査が始まる年である。学部の研究倫理審査委員会と同日開催とするが、大学院生の研究計画書作成日程にあわせ、4月と10月に独自に開催し、倫理審査の円滑化を図る。

イ　実施をとおして円滑な実施運営方法や実施上の課題について整理し改善点を明らかにする。必要があれば手順、申し合わせ事項等に類するものをまとめる。

ウ　迅速な審査結果に努める。大学院生は修業年限が限られており、できるだけ早く研究に取り組む必要がある。そのため1週間を目途に申請者に審査結果を通知するよう努める。

3 取組状況　DO

（1）倫理審査の円滑かつ迅速な運営

ア　平成29年度の看護学研究科倫理審査は倫理規定に従って実施した。申請は4件あり、年度当初の目標どおり4件とも初回での承認又は条件付き承認となり、結果通知は、計画どおり4件とも1週間以内に本院宛に通知した。。

イ　円滑な運営を行うため、研究倫理審査結果通知書等の書類を作成した。また、1効果的かつ効率よく適正な審査を行うため、9月13日付で「平成29年度看護学研究科研究倫理委員会　運営に関する申し合わせ事項案」ならびに「事前審査様式案」を委員会で審議し、9月28日の研究科委員会で承諾を得た。

（2）その他

学部主催の「ヒトを対象とした研究における倫理的配慮」に関する教員研修会（9月21日開催）に大学院生8名が参加し、今後の研究活動に直結する倫理的配慮への学びを深めた。

4 点検・評価　CHECK

（1）倫理審査の円滑かつ迅速な運営

ア　平成29年度は初年度でもあり、規定に従って運営を進めた。

イ　円滑な運営のために「平成29年度看護学研究科研究倫理委員会　運営に関する申し合わせ事項」に従って、10月からの倫理審査に当たっては、委員全員による事前審査により、各申請の倫理上の課題の共有化がなされ、公平かつ効果的な審査が行われた。

ウ　審査結果については1週間を目途に通知ができた。条件付き承認も回答書類が提出されてからできる限り最短で結果を通知するように務めた。このため、申請者に直接、審査結果の内容と意図などについて説明したがこのやり方については今後の課題である。

エ　規程にない問題に対して、詳細な取り決めがないため混乱があった。

（ア）倫理に関する法改正等もあり、また、初年度でもあって研究論文のデータの保管期間、場所などについて研究科の統一見解を示すことが遅くなった。

（イ）倫理委員会の日程等が院生に周知徹底していなかった。研究科オリエンテーション、研究指導教官、倫理委員会など連携、確認不足があった。

オ　次年度に向けて申請者（院生）から倫理審査についての意見の収集を行い、今後の課題に取り上げた。

（2）その他

研究倫理に関する研修への参加は、急な通知にもかかわらず、多くの院生が積極的に参加していた。今後も研究公開委員会主催の研究報告会等、教員研修の中で、大学院生の研究活動に役立つ内容の場合には、院生へ参加を呼び掛ける必要がある。

5 次年度に向けた課題 ACTION

（1）倫理審査の円滑かつ迅速な運営

（2）研究科倫理委員会による規程外の事項（倫理委員会の日程、研究データの保管等）についての決定と周知、連携の必要性

（3）審査結果通知の方法についての検討（通知書の通知方法、結果説明の有無など）

（4）看護学研究科の学術雑誌の創刊に向けた検討を開始する。

（5）教員対象に行われる研修の中で大学院生の研究活動に資する内容については、可能な限り大学院生にも参加を呼びかける。

以上

看護栄養学部　看護学研究科

4　その他〔自己点検・評価〕

関連委員会	看護学研究科自己点検・評価委員会
関 連 部 署	事務部
関連データ	

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）看護学研究科の各委員会の活動にPDCAサイクルを実施するとともに、活動内容が研究科の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化に寄与しているか点検評価する。
（2）看護学研究科として昨年度の活動実績を報告する。

2　具体的計画　PLAN

（1）PDCAサイクルの実施と点検評価
　ア　看護学研究科の各委員会より、4月末日を目標に活動計画を提出させ、自己点検評価委員会で点検を行う。看護学研究科の年度方針と合致しているかについて各委員会と調整し、5月の研究科委員会にて報告する。
　イ　看護学研究科の各委員会から2月末に報告書を提出させ、自己点検評価委員会で点検評価し、3月の研究科委員会で報告する。
（2）平成28年度の看護学研究科の活動実績に関する大学年報の執筆を行う。執筆にあたっては、今年度に限り研究科長が執筆を行う。来年度からは各委員会に執筆依頼をし、原稿の取りまとめを行う予定である。その際、大学年報は大学自己点検評価の一環として、PDCAの取り組みを公表するものであるため、内容を点検評価し、完成度の高い年報となるよう努める。

3　取組状況　DO

（1）看護学研究科委員会、教育向上委員会、研究倫理委員会、自己点検・評価委員会より各活動計画書が4月末までに提出され、5月の研究科委員会にて提案し、了承された。この活動計画書に基づく活動報告書は2月末までに提出され、3月の研究科委員会で報告された。
（2）平成28年度の大学年報の看護学研究科の部分の執筆を研究科長が行い、9月に発行された。看護学研究科として開設1年目の活動実績を報告した。

4　点検・評価　CHECK

（1）計画通り実施され、各委員会の活動におけるPDCAサイクルを確立し、今後の改善に繋げることができた。
（2）活動報告書が提出された後、活動内容が研究科の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化に寄与しているか本委員会において点検評価を行った。

5　次年度に向けた課題　ACTION

（1）次年度も各委員会の活動にPDCAを継続して実施するとともに、研究科の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。
（2）年報に看護学研究科の活動実績を報告する。

以上